

3 高齢者虐待の発生要因

虐待の背景に目を向ける事で、支援の方向が見えてきます。要因を考えることが、虐待の防止・早期発見につながります。

高齢者虐待の発生要因

虐待者側の問題

- ・ 高齢者に対する恨みなど過去からの人間関係の悪さ
- ・ 介護知識や技術、介護意識の欠如
- ・ 他疾病、障害など（精神疾患、認知症含む）
- ・ 高齢者の身体機能低下や認知症であることの受け入れができない
- ・ 性格（自己中心的）
- ・ 介護負担による心身のストレス
- ・ 就労、遠方居住などのために十分な介護ができない
- ・ 収入不安定、無職
- ・ アルコール依存
- ・ 精神不安定、潔癖症
- ・ 高齢者介護に対する価値観
- ・ 金銭の管理能力がない
- ・ ギャンブルなど
- ・ 借金、浪費癖がある
- ・ 相談者がいない
- ・ 親族からの孤立

被虐待者側の問題

- ・ 虐待をしている者との以前からの人間関係の悪さ、悪化
- ・ 性格（頑固、強引、自己中心的）
- ・ 認知症の発症・悪化
- ・ 要介護状態
- ・ 他疾病、障害など
- ・ 在宅生活への強い固執
- ・ 加齢や怪我による ADL（日常生活動作）の低下
- ・ 判断力の低下、金銭管理能力の低下
- ・ 収入が少ない
- ・ 借金・浪費癖がある
- ・ 精神不安定な状態
- ・ 整理整頓ができない
- ・ 相談者がいない

その他の問題

- ・ 家族関係、親族関係の悪さ、無関心、孤立
- ・ サービス利用にお金がかかる
- ・ 近隣、社会との関係の悪さ、孤立
- ・ 家族の力関係の変化（主要人物の死亡など）
- ・ 家屋の老朽化、不衛生
- ・ 人通りの少ない環境
- ・ 暴力の世代間・家族間連鎖

高齢者虐待は、高齢者と養護者の間でとれていたバランスが、両者の心身の状態や性格、疾病、経済困窮状態などにより崩れ、そこに過去の相互の複雑な関係が影響しあって起きています。また、これまでしっかりしていた高齢者が認知症などの発症により、両者の力関係が逆転して起こる場合もあります。

なお、高齢者虐待の要因は単独の場合もありますが、実際には複数の要因が複雑に絡み合うケースが多いことが、2ページの実態調査でも見られています。一つひとつの要因と向き合いつつ、総合的な視点で解決に向けてのゴールを定め、対応していくことが支援にあたる市町や専門職に求められます。